

対策セミナー「肝臓がん撲滅を目指して」 静岡



「C型肝炎・肝臓がん撲滅を目指して」と題して開かれた対策セミナー＝10月21日、静岡市内のホテル

# C型肝炎、治せる時代に

「C型肝炎・肝臓がん撲滅を目指して」と題するC型肝炎対策セミナー(時事通信主催)が10月21日、静岡市のホテルで開かれた。治療の負担が大きいインターフェロンを使わないインターフェロンフリー治療が昨年から可能となり、登壇者は「C型肝炎は治せる時代になった」と強調。肝炎ウイルス検査や治療を受けていない潜在患者が大勢おり、一人でも多くの人に検査を受けてもらい、治療につなげることが大切だとした。

## 国が慢性肝炎を対策

セミナーには、県内市町の担当や医療従事者約70人が出席。C型肝炎をめぐる最新の情報に目を傾けた。最初に登壇した厚生労働省健康局がん・疾病対策課の林俊宏肝炎対策推進室長は、肝炎の全体像と国の対策を説明。肝炎の原因ウイルスのうちB型とC型は慢性化しやすい。長い時間をかけて肝硬変や肝がんにつながる。国として慢性肝炎対策に力を入れていく。最終的に肝がんによる死亡を減らすことが狙い」と林室長。

慢性肝炎はほとんど自覚症状がなく「気づかずに」治すステップに行きにくい病気。国民の約半数がウイルス検査を受けておらず、また陽性と分かって放置している人が50万人ほいでいるとのデータを示し、「革新的な治療法の変化があり、検査から治療への流れをつくることで、C型肝炎の人を画期的に減らせる時代になってきた。心に残る啓発、行動変容につながる広報をしていかなければ」と述べた。

## 施策の柱「3つの目標」

続いて、県の山口重則健康福祉部長が県の現状と対策を紹介。肝炎対策推進計画で分かりやすく数値目標を掲げており、「他の県ではあまり例



山口重則氏



林俊宏氏

## 林氏 心に残る啓発活動大切

大学医学部付属病院の小林良正肝臓内科診療科長は、「肝がんが増えてくるのは2000年から減少傾向。インターフェロン治療が行われるようになった影響も」と指摘。しかし、依然として死亡原因の1位は肝がん。特に日本は欧米に比べて肝がんの罹患(ひか)率が低い。C型肝炎は肝がんの危険度が17倍、他の危険因子に比べて圧倒的に高い。慢性肝炎の進行とともに肝がん発生率が上がるという。進行度を調べるには、血小板の数がいい指標になるとした。

「正しく字はうC型肝炎」をテーマに講演した浜松医科大学の山口重則氏。慢性肝炎は、肝臓の炎症が持続して進むと、肝硬変や肝がんの原因になる。早期発見で治療すれば、肝臓の機能を保ち、肝がんの発生を減らせる。抗ウイルス療法は、肝臓の炎症を抑え、肝臓の機能を回復させる。早期発見で治療すれば、肝臓の機能を保ち、肝がんの発生を減らせる。抗ウイルス療法は、肝臓の炎症を抑え、肝臓の機能を回復させる。

「正しく字はうC型肝炎」をテーマに講演した浜松医科大学の山口重則氏。慢性肝炎は、肝臓の炎症が持続して進むと、肝硬変や肝がんの原因になる。早期発見で治療すれば、肝臓の機能を保ち、肝がんの発生を減らせる。抗ウイルス療法は、肝臓の炎症を抑え、肝臓の機能を回復させる。早期発見で治療すれば、肝臓の機能を保ち、肝がんの発生を減らせる。抗ウイルス療法は、肝臓の炎症を抑え、肝臓の機能を回復させる。

## 山口氏 分かりやすく数値目標

## 小林氏 抗ウイルス療法で予防



山口重則氏



山口重則氏

**登壇者**

林 俊宏氏 (厚生労働省健康局がん・疾病対策課肝炎対策推進室長)

山口 重則氏 (県健康福祉部長)

小林 良正氏 (浜松医科大学医学部付属病院 肝臓内科診療科長)

玄田 拓哉氏 (順天堂大学医学部付属静岡病院准教授)

「医療は行政と連携を」 続くパネルディスカッションでは、さらに対策を進め肝がん死を減らすための方策を討論した。玄田氏は肝がんについて、何度も再発しストレスが大きい上に生存率が低くない「大変な病気」とし、小林氏も「肝がんのことを考えると肝臓治療は早めにするのがよい。高額だが、医療費助成を受けられるので負担は少ない」と指摘した。

高額の薬価や検査費・医療費助成で国の財政負担が大きいのが、林室長は「肝炎の撲滅、肝がん死の低下は国の施策。一人でも多くの人が治療を受けて治すことを目指している。健康で長生き、これに勝る効果はない」と述べた。

県が実施している地域ごとの状況把握を対策に生かすため、山口部長は「データを市町に示し、かかりつけ医とも連携を取りながら検査率アップ、陽性者の精密検査や治療率のアップに取り組んでいきたい」と話した。これに添えて玄田氏も「今まで医者が行政と一緒にやる機会が少なかったが、肝炎は医学面、つまり治療という点に関してはゴールに達している。あとはいかに患者を治療につなげるかと提起、連携の重要性を語った。

最後に、会場の自治体関係者に向けて、小林氏が「県が肝臓患者のケア、肝がん死亡率を最も低下させた県であると評価されるように、みなさんと一緒に頑張りたい」と呼び掛け、パネルディスカッションを締めくくった。